

# 針葉樹会春季懇親山行

## 三ツ頭山(2580m)報告

2012.5.26

高度1500mのほぼ水平なハヶ岳スーパートレイルをのんびり歩くはずの当初予定が、突然、2580mまで登り、そして1300mまで下ると言う、上下2300mの過激な山行に化けました。

幹事の思いつきによる勝手な変更です。本来であればまことにけしからぬことです。しかし、結果は全メンバーが8時間を歩ききり、しかも「良かった！」と納得していただきました。

ほっとしました。同時に登山とは、過去の記録もさることながら、いつに変わらぬ山に対して、間断無く変わってゆく只今現在の自分をぶつける、際限の無い挑戦なのだと思ったりしました。その挑戦に打ち勝った皆さんの笑顔は最高でした。これからも山岳部精神を発揮しての果敢なチャレンジを期待いたします。

山行幹事

9:45 天女山駐車場



S42齋藤正・S40佐藤力・S37宮本英治・S36仲田修・S40本間浩・S37三井博・S43中村雅明

# トウゴクミツバツツジ

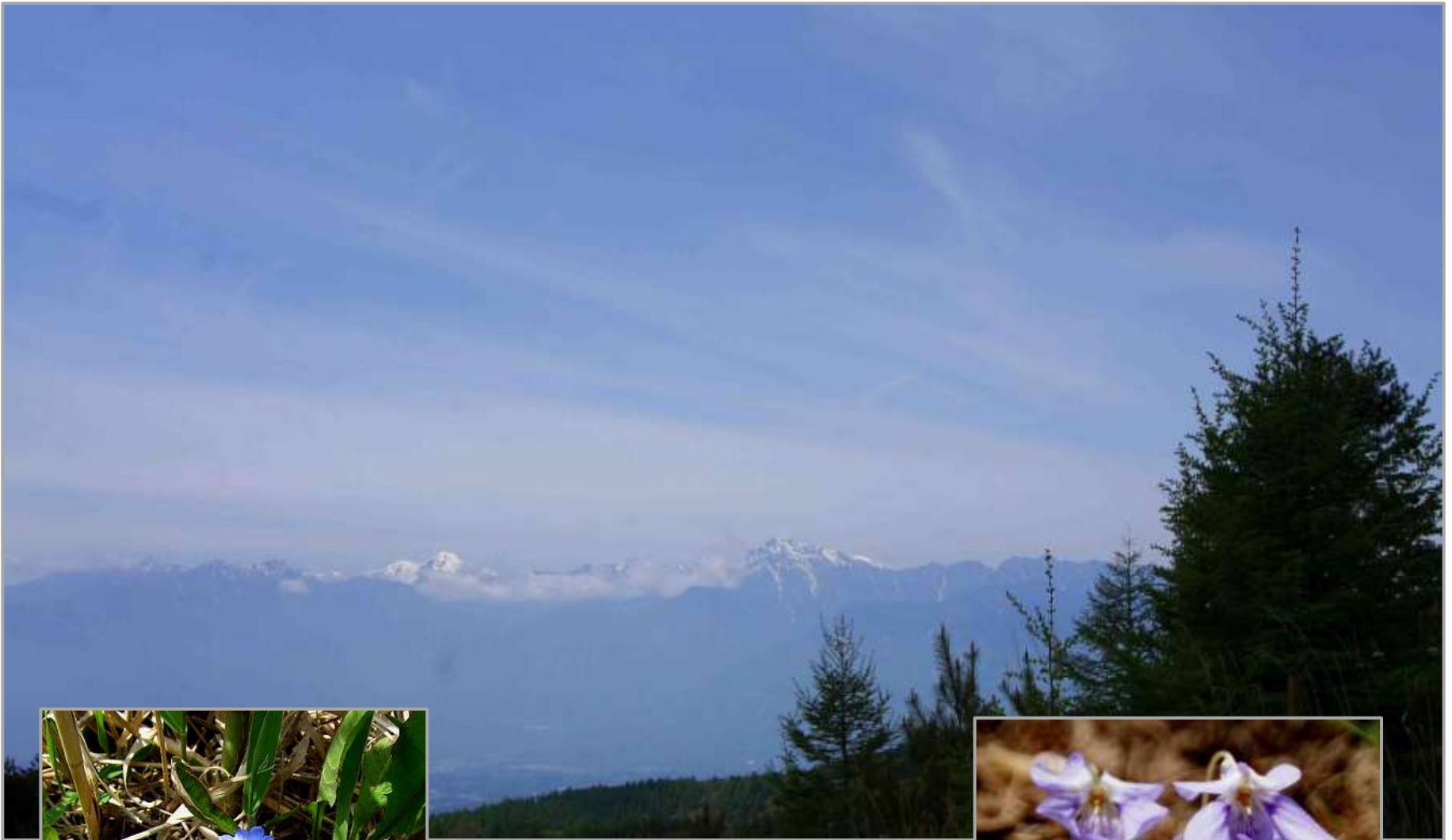


登山口では満開。しかし、10分も登ると固い蕾。  
上下に歩いて季節を知る。



さすが別荘族の裏山の散歩道。実に穏やかな雰囲気。

10:00 天の河原



北岳

甲斐駒ヶ岳

フデリンドウ(by EM)



タチツボスミレ



カラマツが芽吹き始めた。  
火山のせいか地味があまり  
豊かではないこの一帯で  
は春の最も鮮やかな兆しだ。  
穏やかな山麓歩きが続く。  
沢山の人が地面に白い線  
で枠を作り、その中の植生  
を記録する作業をしていた。  
そんなことをしながら山を登  
るのもいいだろう。



10:30権現・三ッ頭登場

12:00 森林の中の急登

のんびりした山麓歩きは突然樹林の中の急坂に変わる。あえぎながら登りきった所に「ここが一番きつい」と書かれた道標がある。そんなことを書いても実質は何の意味も無い。しかし、思わずほっとする。なぜだろう？



12:50天界へ




天女山と言いういささか色っぽい地名の山から1530 mの等高線沿いのほぼ水平な道を西へ5時間半ゆったりと歩く。それが懇親山行の当初の計画だった。1年前の八島湿原から蓼科へ向けてのハヶ岳200kmトレイルウォークの第2回目と言う心つもりだった。ところが5月の連休に歩いて見て、そのルートのアマリの単調さにごっかりした。延々とカラマツの樹林が続き、展望は何も無い。一步一步高みを目指し、遂に絶頂に立つと言うドラマも期待できない。それでは皆さんにわざわざ来ていただいても申し訳ないのではないかな？ 勝手にそう考え突然コースを変更した。その結果の厳しい登りが続く。

## 13:25針葉樹林帯

「針葉樹」、何気なく口にしているが、凜としてまっすぐに伸び、北側の枝が縮む等と言うみっともない姿も見せない。実に力強いその樹の名前を会の名前にした先人の心意気を改めて評価したくなる。感謝。



13:30 前三ツ頭



前三ツ頭に着いてほどなく、南アルプスの上に水平の虹が現れた。博学士斎藤さんが吉祥の彩雲であると宣言した。確かに何だか厳かな感じで一同頭をたれ、願い事を唱えた。しかし、この後我らがパーティーは一時的に分裂するという凶事に見舞われた。決して幸運の雲とは思えない。

後刻宮本さんが調査したところによれば、これは「環水平アーク」と呼ばれる現象で、上空の氷の結晶の方向がほぼ揃った時、その氷粒によって、太陽光が屈折し、太陽と同じ方向(虹は反対側)にほぼ水平な虹が現れるのだと言う。

同じ日の午前、埼玉でもこの虹が観測されたとのことでしっかり公式記録に乗っていた。ぼくらの記録はぼくらの心の中だ。

13:35 三ッ頭へ

予定コースの変更の結果、発着地点は同じだが、経由地点は予定より1000mも高い三ッ頭山になった。僕は4月7～8日にかけて権現から赤岳まで縦走したが、その折に見た景色があまりに素晴らしく、皆さんにそれを何としても見ていただきかった。それにしてもだまし打ちと言えるくらいのとんでもない変わりようだ。↓

↓最初の1時間ほどはゆるやかで、穏やかな登りが続く。しかし、その後の2時間は樹林の中の前三ッ頭山への厳しい登りだ。ここですっかり消耗した。そして、それから2時間ほどの三ッ頭山への最後の登りでパーティーは2つに分かれた。1隊は頂上へ、もう1隊は同じ道を下山などと言う事態に至った。山行幹事としてはすっかり青ざめた。何が懇親山行か！これでは何の意味も無いではないか。気が気で無い思いで三ッ頭山へ向かった。下山口でのジャンボタクシーの待機時刻は1時間繰り下げて5時半とした。携帯が通じて助かった。



14:15 残雪現る。この時期の2580m地点の雪の状態はどうか？ あまり考えていなかった。ところが東京から眺める白根三山は未だに白い。軽量アイゼンが必要かもしれない。しかし、皆さんにはその旨の事前案内はしていない。前夜心配になり、ありったけの(と言っても3つ)のアイゼンを担いだ。結果不要だったとは言え紙一重だった。しかもパーティーは2つに割れた。山行幹事は色々な事を考えなくてはいけない。



権現岳2715m



パーティーが割れていささか気落ちしながらもどうにか森林限界の分岐点に辿りついた。這松が生い茂りすっぽりその中に埋もれた地形で南側の景色しか見えない。冬の時と様子が違う。こんな筈は無い。皆さんに休んでいただき単独でもう少し先に進んで見る。すると3分もしないで這松が切れ、三ツ頭頂上となり、その向こうにハヶ岳南端の絶景が展開した。これだ、これこそが皆さんにお見せしたかった眺めだ。慌てて戻り、「だまされたと思ってもう少し登って下さい」と声をかける。皆さんは正に半信半疑の様子でやれやれと歩きだす。ここまでだまされればそうなるだろう。そして3分、頂上から歓声が上がった。



ギボシ

権現岳

阿弥陀岳

キレット

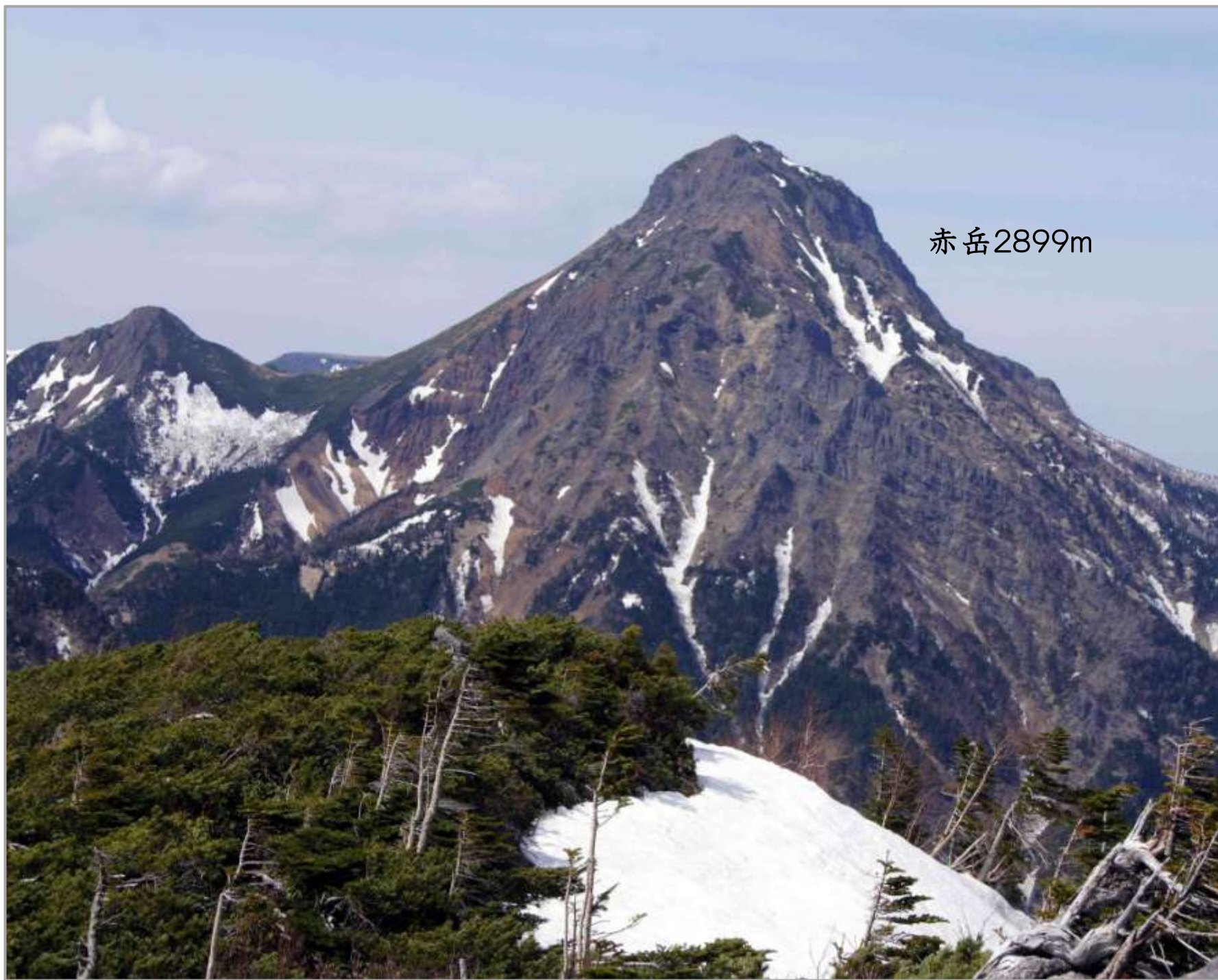
赤岳



4月7日 15:00  
1ヶ月半前の一帯の様子。  
これを見ないわけにはゆかないだろう。



by EM デジカメのレンズにf1.4があるということを初めて知った。宮本さんの超秘密兵器だ。



赤岳2899m

14:30

これは掛け値なしの笑顔



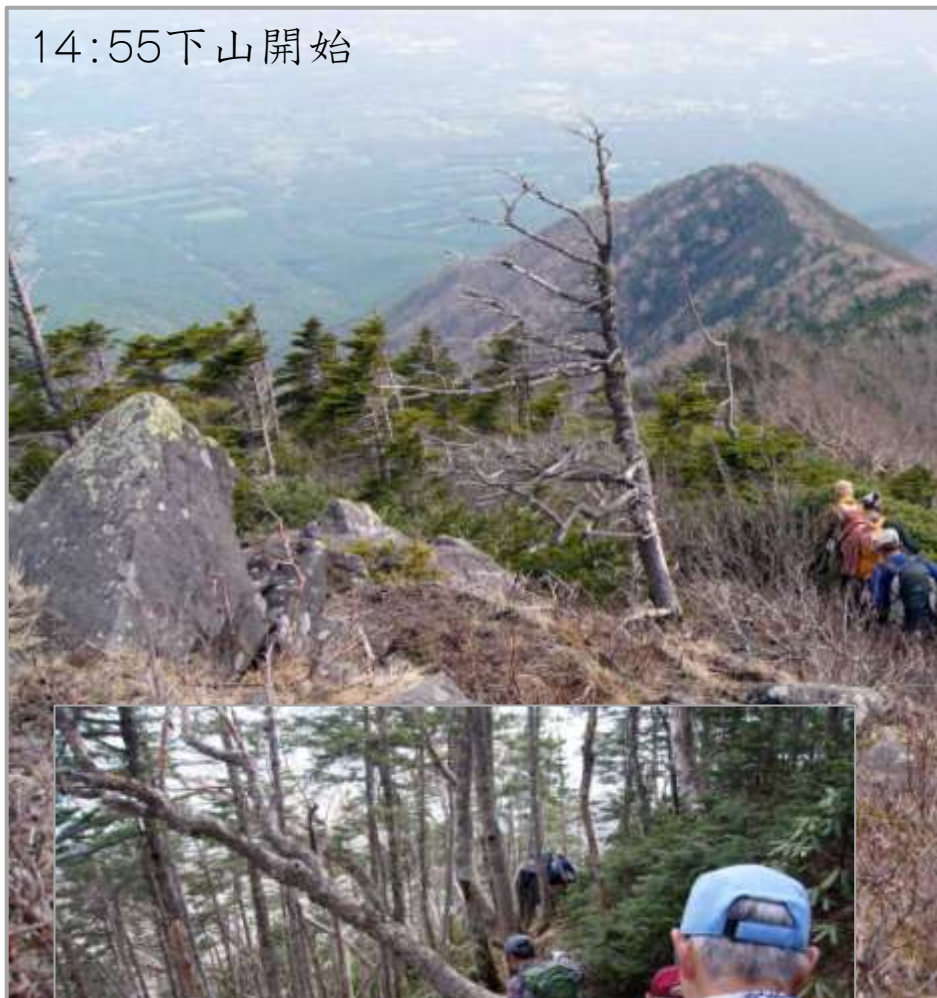
頂上隊が権現、阿弥陀、赤岳の見事な眺めを堪能して分岐点まで戻ると、何と下山予定隊も15分遅れで登って来ていた。何と言う粘り、何と言う気力。かくて突然のコース変更にもかかわらず、平均年齢69歳隊は全員見事に登頂を果たした。さすが針葉樹会！ 万歳！

14:45



By EM

14:55下山開始



頂上からの眺望に満足し、さあこれであとはひたすら下山だ、とほっとしたものの、直下の樹林帯の道は急で荒れ果て、しかも所々に雪が残っていた。ここまで偵察していなかった山行幹事としてはまたまた冷やもの下山となった。



15:35 見上げる権現

しかし、最初の1ピッチを下るとさすがに穏やかな稜線に変わった。なぜか一帯の岳樺は無残に枯れ果てている。枯れ枝越しに権現が次第に遠くなる。



## 青年小屋



長い、ひたすら長い下りだ。そこを一行は黙々と歩く。  
S37同士の会話が始まる。超OBたちが集まっては、毎月  
何らかの報告勉強会をしているとか。そうか、超OBたちは  
そんな社交を楽しみにしているのか？ 自分はどんなこと  
になるのだろうか？ と考えながら下る。長い坂道。

16:05木戸口





## 16:35 笹すべり

全山見事な笹に覆われている。おかげで高山植物が育たないとの批判がある。まあそれは、ほかの山に期待してはいかがでしょうかと思いつつ笹を蹴散らしながら下る。さて、その笹はクマザサなのか？ 去年はクマザサは京都の鞍馬山にしか無いと言う説が現れ沈黙した。今回はクマは目の下のクマであり、熊ではないとの説が出て再び沈黙した。世間はさすがに広い。



## ハヶ岳スーパートレイル

当初の予定はこのトレイル歩きだった。ゆったりとした気楽な歩きを意識して参加されたメンバーには大変なご苦勞をかけてしまったが有難いことに全員そろって下山できた。

この埋め合わせは秋の香港のトレイルウォークでさせていただきたい。香港のトレイルには登山の面白さもふんだんに散りばめられている。水平ではあっても飽きるようなことは決して無い。これはウソではありません。

## ハヶ岳スーパートレイル

17:26 ハヶ岳神社・

立派な社殿があるのだろうと期待していたが巨石の上に小さな石の社があり、回りがケルンの様な無数の小石で覆われているだけだった。これでは由来も何も分かりはしないが社の雰囲気は十分にあった。





17:48 迎いのジャンボタクシーに乗車。運転士の津金さんに山中から電話し(090-4729-4873)、4時半到着の予定が5時半になるからよろしくと伝えた。結果上下差2300m、総歩行時間8時間のハードなコースを全員が完走、5時半には登山口に辿りついた。先頭メンバーから車が来ているぞと歓喜の声が上がった。さすがに針葉樹会だ。御苦労さまでした。

18:16 蓼科山見ゆ



# 記録

1. タイム 5.26(土)		木戸口	15:45 15:55
小淵沢	8:54 9:05	金命水	16:50 17:00
天女山駐車場	9:30 9:45	ハヶ岳神社	17:15
天の河原	10:00 10:10	三ツ頭岳登山口	17:35
山桜下	10:50 11:00	アダージオ	18:30
2000m地点	11:30		
稜線	11:50 12:00	2. 経費 / 人	
2200m地点	12:15	宿泊代	10000円
前三ツ頭	12:45 13:30	タクシー代	3500
三ツ頭頂上手前	14:05	宴会代	1500
頂上	14:25 15:00	合計	15000



恒例大宴会+秋山さん



私だって、こぼさないように気をつけてお料理を運んだり、お皿だってきれいに洗っているけど、だれもその辺はアプリーシエートしてくれませんか……。



## 宴会メニュー一覽

そばサラダ；

おそばをサラダ風にして季節のお野菜も盛り込む子株のグラタン；

スープで煮た子株にチーズを乗せてオーブンで焼くコゴミの白和え；

さっきそこで採ってきたコゴミを使ってヒジキとたまねぎのマリネ；

葉山の海岸で採れたヒジキと斉藤正さんが千葉館山で作られた玉葱(極寒用株)をマリネ

ピータン豆腐；

お豆腐の上にピータン、ザーサイ、干しえびと若干の企業秘密を乗せたもの

ガイヤーン；

鶏肉をタイ風にオーブンで焼きました

ブリの粕漬け；

焼いたものに添えの野菜はみつばのおひたし香の物；

きゅうりの粕漬け、赤カブ付け

おにぎり

お吸い物

松尾さん今回もありがとう

犬のクーちゃんは1月に19歳で逝去  
アダ-ジオは今後もぼつぼつ営業継続

# メンバーの感想集

## 三井 博

私の母は大分前に逝去しましたが、山梨県須玉町若神子(現北杜市)出身で、私も戦時中1年余り疎開しておりました。東方面に茅ヶ岳、南方面に鳳凰山、甲斐駒ヶ岳、東南に富士山が見えました。西方はハヶ岳、北方には金峰山がありますが、前山に遮られて少し小高い山に登らないと見えませんでした。山に囲まれた土地ですが、冬期は毎日ハヶ岳風が吹いて大変寒かった記憶があります。

話は飛びますが、高校時代の遠足で清里～美し森～天女山～甲斐小泉駅を歩きました。したがって今回の天女山は2回目となります。この小海線は日本一高度が高い場所を登るうえに、季節がくると「やすで」が大発生して車輪が空回りして登れず、昔は蒸気機関車だったので、砂を巻きながら少しずつ登っていったそうです。今は昔の話ですが。

このような環境にありながら、ハヶ岳の登山はかなり後になります。30代のある日、単独行で美濃戸～行者小屋～阿弥陀岳～赤岳～真教寺尾根～美の森を駆け抜けたのですが、疎開先の若神子は前山が幾つもあり、全く見えずがっかりしました。

前置きが長くなりましたが、今回の懇親山行は最初の登りは緩やかで、これは楽勝かと思いましたが、次第に急登となり、前三ツ頭あたりで既にへとへと状態でありました。しかし、何とかついて三ツ頭まで行くと、赤岳を始めとする素晴らしいハヶ岳主稜の光景が広がり、今までの苦勞が吹き飛びました。まだ登ったことのない権現岳が手の届く近さにあり、是非行きたい意欲に駆られました。標高差は135mで1時間の登りですが、雪が多くなり、結構大変そうでした。

下りは少し離され気味でしたが、いやその長いこと長いこと。うんざりしました。結局予定より1時間程度遅れましたが、私もその遅れにいささか貢献したようでした。久しぶりに参加した宮本さんは、意外とっては失礼になりますが、中々強く、今後の山行に強力な仲間が出来そうです。

花は色々あったようですが、当方の知識不足と細かく見る余裕がなく、野鳥は何故かコジュケイの声がかなり高い地点でも聞こえました。三ツ頭付近では岩鳥と思しき鳥が飛び回っていました。

アダージオでは松尾さんご夫妻に大変お世話になりました。クーチャンが亡くなったのは残念ですが、クーチャンがいなくなったせいか、鹿が出てきて野草を食い荒らすようになったそうです。

野鳥はいま端境期でイカル、キジボトなど数種類だけでした。リスはいましたが、秋山さんという若い(?)女性が1人で宿泊していました。彼女は年数回1人で来られるようです。このようなサポーターが多く増えることを期待いたしましょう。

ツアー会社のパンフレットを調べてみたら、北アルプス総合案内所(白馬館)に青年小屋泊まりで、編笠山～権現岳～三ツ頭～天女山のルートが紹介されていました。10月27日(土)～28日(日)で1日目4キロ3時間半、2日目11キロ5時間半です。これなら行けるかなあ。

## 中村雅明

今回はハヶ岳スーパートレイル2回目として案内されました。昨年、同じ時期に行われた第1回に参加し、天候には恵まれなかったもののトレイル歩きの楽しさを十分味わえたので、200Km完歩の第2歩を踏み出すべく参加しました。出発間際に金子さんからコース変更の提案がありました。偵察山行の結果、予定したコースはハヶ岳の樹海をひたすら歩き面白くないので三ッ頭登山を加えたいとのことでした。但し、全コースの内、ハヶ岳スーパートレイルは3分の1有るとの事でしたので、気分はハヶ岳スーパートレイル歩き2回目として参加しました。実はお恥ずかしいことに「三ッ頭ってどこにあるの」と前日地図で捜した位、南ハツに疎かったのです。1000m登って1300m下るハードな山行であるとは夢にも思いませんでした。

当日は快晴の絶好の登山日和に恵まれました。まずはこれでこの山行は半ば成功。山行の様子は、金子さんが撮影・編集された素晴らしい山行写真アルバムに余す所なく纏められています。30頁に亘る大作で、歩いた登山道、登りのつらさを忘れさせたツツジ、リンドウ、スミレの花々、運良く現れた彩雲、天の河原で眺めた北岳、甲斐駒ヶ岳、三ッ頭頂上から眺めた迫力満点の赤岳、阿弥陀岳、権現岳……鮮やかに蘇ってきます。上下差2300mのかなり厳しいコースでしたが、三ッ頭からの赤岳の偉容に全員感激しました。金子さんのコース変更は大正解でした。三ッ頭頂上で撮った写真の皆さんのニコニコ顔がそれを物語っています。編笠山－権現岳－キレット－赤岳の縦走プランも自分の中に芽生えた実りある山行でした。

ハヶ岳スーパートレイルは今回は横切っただけで、200Km完歩の構想も、これで打ち切りとなりそうな気配で残念です。熊野古道のような趣を持ったコースでない様ですので仕方ないでしょう。この時期のハヶ岳は新緑が美しいので懇親山行ハヶ岳シリーズとして続けて下さい。今回、コースの候補となった信玄棒道を家内と二人で、最初は徒歩で、2回目はMTBで訪れ楽しかった思い出があります。ハヶ岳スーパートレイルも単調な所はMTBでたどり、登山も交えて200Kmトレース出来ないか、個人的な研究テーマとします。また、今年11月末に香港トレイル歩きが計画されているとのこと、楽しみです。  
(余談その1)三ッ頭から戻って前三ッ頭で休んでいる時に突然脚が攣りました。登りの急登ではそれほど足が重くなかったのに、「何これ」とあわてました。恥ずかしかったので、皆さんに気付かれない様に、最近常備している「芍薬甘草湯」を飲みました。あら不思議、数分で痙攣が直りました。長い下りでも後遺症が全く無く威力抜群です。「芍薬甘草湯」は5月度三月会記録で紹介されています。

(余談その2)今回は唯一人、往復鈍行で行きました。行きは八王子6:35発の松本行きで小淵澤9:01着。集合時間に若干遅れましたが事前にお許しを頂いていました。特急は混雑していて、指定券が買えず甲府の先まで立ってきたお気の毒な方が二人いました。4人掛けのボックス席を一人占めしてのんびり来たので申し訳なくも得をしたような気分でした。帰りは茅野10:26発の特急を見送って10:38発の鈍行で甲府へ。甲府での接続が良く1分の乗り換えで高尾行きに乗り13:11高尾着。14時過ぎには帰宅出来ました。中央線は車窓からの景色も良く、鈍行の本数も多く、接続もよいので金ナシ暇アリの年金族にとっては鈍行お勧めです。

## 佐藤 力

今回の山行の感想は、一言でいえば「眼福ここに極まれり」といったところです。ハヶ岳は昭和36年(入部の年)に北ハヶ岳に登って以来のことで(それも双子池をおぼろげに覚えている程度)、どんな山やら興味津々の入山でした。結果は期待をはるかに上回る「眼福」のオンパレードでした。以下列記します。

その1 天の川原からの眺望。茶室の床を飾る有名な掛軸に「半身達磨」がありますが、ここでは生まれて初めて「半身富士」に出会いました。少し離れた右手には真っ白に輝く北岳、甲斐駒ヶ岳等々。私には富士山と北岳がまるで会話でもしているように見えたのでした。

その2 唐松の新緑。常緑の針葉樹林の中で、唐松の浅い明るい緑が際立って新鮮でした。

その3 前三ッ頭からの眺望。天の川原より740m高いたけに、更に視界が広がって仙丈岳はもちろん、中央アルプス、ぼんやりだが北アルプスまで、絶景に見とれているうちに彩雲まで現れるおまけつきです。

その4 三ッ頭からの眺望。間近に見る赤岳、阿弥陀岳、権現岳……絶句。

眼福の他にも収穫がひとつ。それは36年夏合宿後半の縦走(剣岳～笠岳)で苦しめられた宮本先輩に51年振りでお会いできたこと。何しろ前代未聞のぼうふら御飯を食べさせて下さったのですから。宮本さんと向かい合って頂いた夕食の酒が、一段と旨かったことは言うまでもありません。

金子さん始め同行の皆さん、松尾さん、お天気の神様、ほんとうに有難うございました。

## 本間 浩

「麓を廻るつもりが、高い所に登る事にナリ、しかも1000m登って1300m下る。こりゃ応えました。

辛い事だけじゃなく、ご褒美もあって。「赤岳」でございます。赤岳だけが屹立して。素晴らしかった。来年は、赤岳～キレットと歩かにな。

## 齋藤 正(事前感想?)

三ッ頭山が加わって、俄然懐かしさがたかまってきました。今からでも間に合いますか。間に合うのであれば、26日の山行と同日のアダージョ宿泊の手配をお願いします。

大昔、私は国立第三小学校というところに行っていました。その図書室の係りに、中村さんという中央大学生のお兄さんがおり、赤松要先生の御宅のすぐそばに住んでいました。貧しく本を買えなかった私はよく図書室に通い、中村のお兄さんと親しくなりました。その方が、世界偉人伝50余巻を読んだら山に連れて行ってくれると約束してくれました。私は約束を果たし、翌年中学に進学した夏、今度はお兄さんが約束を果たしてくれました。それで連れて行ってくれたのが、天女山から権現岳でした。つまりつたなき私のそれらしき処女山行でした。

中村さんは、作家吉川英治氏のご親戚に当たる方で、6年生の時、御岳から日の出山に連れて行ってくれた際、日向和田の吉川氏宅でご馳走してくれましたが、その時垣間見た吉川先生の和服の後ろ姿も忘れられません。

## 仲田 修

今年の春の懇親山行は昨年高々と掲げて始まった”ハヶ岳スーパートレイル200キロ踏破”というマニフェストの第2弾ということだったので両手を上げて参加を申し出た。

ところが”標高差1000メートルの三ツ頭登頂”という水平方向から垂直方向へという 突然にしてドラスチックなマニフェスト変更を告げられ 大いにとまどってしまった。標高差700メートルぐらいが自分の一日の限界だと決めていたからだ。しかもメンバーを見ると小生を除けば現役さながらの山の猛者ばかりではないか！これではとても皆さんにはついていけないし迷惑もかけかねないとの思いが強くなり一時は断念まで考えた。えい！ままよ！行けるところまで行ってダメなら戻ればいいや！と考え結局参加した。

当日立川で飛び乗ったあずさ1号の自由席は座れるどころか足の踏み場もない程の超満員の有様。座れたのは下車駅の小淵沢の二つ前の駅という有様で結局はほとんど立ちっぱなしだった。

いつも通り本間さんのトップで天女山を出発。必死になって本間さんの後についていった。天気は昨年とはうって変わって快晴に恵まれた。下界からはなかなか見えない千丈が見えた時は 昨年立て続けに逝ってしまった中川と山本の両君と一緒に登った10年前の千丈のことを想いだした。

標高2364メートルの前三ツ頭で昼食をとった。”三ツ頭登山口への分岐点から先に下りているから”ということでここで本隊と別れた。

その分岐点に到着したところ本隊のザックが脱ぎ捨ててあった。ここから空身で頂上に向かったんだな！と思いながら一息いれていると本隊が戻ってきた。頂上はここから3分ぐらい歩いたところだと言う。何のことはない。途中から下りるつもりが結局三ツ頭の頂上まで来てしまったという訳だ。

そのお陰で赤岳、阿弥陀岳、権現岳の勇姿が眼前に迫る光景を拝むことができた。これも金子さんのマニフェスト変更という大英断があつてのことと今は深く感謝しています。ハヶ岳は一年の時のハヶ岳縦走合宿以来でありまさかこの年で登れるとは思ってもいなかっただけに望外の喜びになりました。標高差1200メートルの下りを延々と歩いた後のアダージオでいただいたビールが格別に旨かった。改めて皆様に感謝いたします。

## 宮本英治

先日は、良き仲間、天候、場所、に恵まれお陰様で楽しい山行を経験致しました。尚、その際年寄りの身であるにも係わらず粗雑な山下りをして、ご心配をお掛け致しました。又、写真を添付します。ご自身の写される機会が少ないと推察し敢てメールします。